

住民健診・がん検診の案内ボランティアとして27日間、
延べ109名のボランティアさんにご協力いただきました。



**ボランティア連絡協議会の運営・ボランティア派遣事業に
ご協力いただける方、ぜひ登録してください。**

社会福祉法人 横芝光町社会福祉協議会

〒289-1727 千葉県山武郡横芝光町宮川11902 TEL 0479-80-3611 FAX 0479-80-3651

E-mail info@yokoshibahikarishakyo.jp <http://www.yokoshibahikarishakyo.jp/>

令和
3年度

福祉のまちづくり 作文・ポスター

最優秀作品と優秀作品紹介

「ふれあいと支えあいの精神に満ちた心豊かな福祉のまちづくりを進めるため、福祉教育の一環として、町内小・中学生から作文・ポスターを募集したところ、182点の作品が寄せられ、小学校の部・中学校の部でそれぞれ入選作品が決定しました。

作文の部

小学校の部 最優秀賞

「お母さんの仕事」



日吉小学校3年
おおき ひな
大木 陽菜

ある日私は、お母さんの仕事場について行く事がありました。

私のお母さんは、デイサービスセンターという所で介護の仕事をしています。いつも仕事から帰ってくると、

「今日も楽しかったよ。おじいちゃんやおばあちゃんとたくさん体を動かしてきたの。」

と教えてくれるので、私は楽しいお仕事ってなんだ

ろう、おじいちゃんやおばあちゃんどんな事をやるのかなと思っていました。

お母さんの仕事場に行ってみると、おじいちゃんやおばあちゃんがたくさんいて、体操で体を動かしたり、お風呂に入ったりしていました。どうしてここでお風呂や体操をするのかと不思議に思い、家に帰ってからお母さんに聞くと、「人はね、年をとるとだんだん手や足が動きにくくなってきたり、力が入りにくくなってきたりするの。だからそうならないようにデイサービスで体操やりハビリをするのだよ。またね、体が不自由になると、家でお風呂に入るのが大変になってしまうから、デイサービスでお母さんたち職員がお手伝いをして安全に入っていたくの。」と教えてくれました。

「でもそれって、お母さんはいつも仕事を楽しいって言うけど、大変じゃないの。」と聞くと、

「そっだね。大変だし疲れるかな。でも、お母さんがお手伝いをする事で、おじいちゃんやおばあちゃんの力になれて『ありがとう』と笑顔で言われると、疲れもなくなっちゃうぐらいうれしいかな。お母さんよりも何十年も多く生きているおじいちゃんやおばあちゃんから教わる事もたくさんあるし、いっしょに体を動かすのもすごく楽しいよ。」と答えてくれました。

人を相手とする仕事で気を使うし、力仕事や車の運転もあって、すごく大変な仕事なのにおじいちゃん

んやおばあちゃんを笑顔にして、楽しそう働いているお母さんがすごくかっこいいなと思いました。

そこで私も、お母さんのようにはなかなかなれないけれど、今の自分にできる事は何だろうと考えてみました。お母さんに相談してみると、「まずは声をかける事が大事よ。あいさつでも何でもいいのよ。勇気を持って声をかけてみてね。」と教えてくれました。

私は、人見知りで、あいさつもいつも緊張してしまっけどこれからは、元気よくあいさつから、そして、いつかお母さんのようにおじいちゃんやおばあちゃんだけにかぎらず困っている人がいたら、声をかけたり、手を貸したりできる人になりたいです。また私だけでなく、お互いに支え合い、助け合える町になってほしいと思います。

小学校の部 優秀賞

「福祉のまちづくり」



横芝小学校5年
わかづめ ゆな
若梅 友那

私の家は、八人家族で、八十八歳のひいおばあちゃんと一緒に住んでいます。

ひいおばあちゃんは、年々耳が遠くなつてしまい、最近では小さな声で話かけると聞こえないので、大きくはつきりとした声で話しかけています。また、ひ

いおばあちゃんは、足も悪くなってしまう、歩くことや階段を上がるときは、とても辛そうです。

私の家には、バリアフリーになっている場所がいくつか所がなく、浴槽に手すりがあるだけです。階段は、段差が大きく、ひいおばあちゃんは、はいはいで上がっていて、とても大変そうです。なので、私はお父さんとお母さんに家の中のバリアフリーの場所を増やしてもらるように相談したいです。

学校の校外学習等で、何度か老人ホームなどに行ってきました。その時は、バリアフリーのことをあまり意識していなかったけれど、この作文をきっかけに、福祉のことについて興味を持ちました。これからは、福祉やバリアフリーのことをもっと知って、ひいおばあちゃんのような高齢者の方を少しでも助けたいと思いました。もし町で、重い荷物を持っていたり、困っていたりする人がいたら、一歩踏み出して手を差し伸べられるようにしたいです。

最近では、新型コロナウイルス感染症が流行っていて、高齢者のかたは、重症化しやすいそうです。私の家では、家族みんなが感染しないように心がけていますが、特にひいおばあちゃんがかからないようにするために、買い物にはお父さんやお母さんが行くようにしたり、車や部屋を消毒したりしています。また、夏休みでもできる限り外出をしないようにしています。もちろん外出先から戻ってきたら、うがいと手洗い、消毒を必ずして、家の中にウイルスを持ち込まないように対策をしています。

しかし、私の家族のようにお父さんやお母さんがいる家庭は良いのですが、高齢者の方しかない家庭もあると思います。そういった時には、地域のボ

ランティアの方が週に数回家を訪ねてくれたり、移動販売車を増やしたりして、スーパーなどの人ごみに行かなくてもいいようになってほしいです。

また、高齢者がいる家庭には、マスクや消毒などの対策グッズが配られると嬉しいと思いました。

一日でも早く新型コロナウイルスが無くなって、高齢者の方が安心して生活できるようになると嬉しいです。

私は、福祉やバリアフリーのことを、この作文で学べたので、機会があったら老人ホームの人や高齢者に関わっている人たちの話を聞いてみたいです。そして、福祉について詳しくなって、家族や友達に伝えて、福祉について考えられる街づくりに協力していきたいです。

小学校の部 優秀賞

「勇気を育てる」



横芝小学校6年

片岡 祐樹
かたおか ゆうき

「今日は本当に助かったんだよ。」
ある日、家へ帰ると祖母が言っていた。

「何が助かったの。」

と聞くと、

「買い物をしていたら買いすぎちゃって、なかなか運べなくて困っていたら、たまたま通りかかった近所

の人が助けてくれたの。」
と教えてくれた。

『ありがとうございます。』と言ったら、
『当たり前のことをしただけです。』って言われたけど、なかなかできることじゃないよね。」

と祖母は言っていた。

「気づき、考え、実行する」という言葉を聞いたことがある。ぼくは「気づく」ことはできても「考える」ことができなかったり、「気づき、考える」ことができても「実行する」ことができなかったりする。祖母を助けてくれたその人は、とても勇気のある人だと思った。ぼくには、その勇気が足りないのだ。

ぼくの祖母は、昨年十月にひざの手術をした。それまではずっと痛みを感じていたようだが、ぼくには祖母をどのように助けたらよいのかよくわからなかった。

入院中は、新型コロナウイルス感染症が流行している関係で、なかなか会うことができなかった。それでもたまに電話で話をする、

「看護師さんがいい方で心強い。」

とか、

「お医者さんにはげまされて元気が出た。」

とか言っていた。

ぼくは、看護師さんもお医者さんも仕事だから当たり前ではないかと思っただ、祖母はそうは感じていなかった。

ちょっとした気遣いが言動に表れ、その言動からいやされたり、はげまされたり、元気をもらったりすることができると感じた。

祖母の手術は成功して、足は治ったはずだが、そ

の後のリハビリも大変そうだ。でも、出かけた先で知り合いの人から心配してもらったり、同じように足が痛い思いをしている人と思いを共有したりすると、はげみになっているのだそう。

ぼくはいつからか、

「また明日ね。おばあちゃん、大好きだよ。」

と言ってから自分の家へ帰るようになった。祖母はそう言う元気が出ると言っていたからだ。こんな何でもないことから元気をもらえるなんて、ぼくにはよくわからない。でも、そんなことで元気をあげられるなら、ぼくにでもできると思い毎日続けている。今は、自分の祖母にしかしてあげられないけれど、周りの人たちに元気を届けられる勇気を育てていきたいと思う。

そして、一人一人の行動は小さくても、こういう気持ちがたくさん集まって、今以上に笑顔とやさしさのあふれる町が広がっていくとすてきだなと思っている。

中学校の部 最優秀賞

「それがないから出来ること」



横芝中学校2年
鈴木 暖菜
すずき はるな

私の通っている中学校には、高齢者や障害者、怪我をしている人が生活しやすいような工夫がありま

す。それは、エレベーターです。これは、学校内の違う階へ階段を使わずに移動するための工夫です。友達が怪我をして車椅子に乗って生活しているとき、階段を上り下りすることが出来ませんでした。そのとき、私は、エレベーターの必要性がよくわかりました。もし、学校にエレベーターが設置されていなかったら、階段を上り下りすることができないからという理由で学校に来ることが出来ない人がいるかもしれないと思ったからです。しかし、私の町にある駅には、エレベーターがありません。駅は、学校よりもたくさんの人が利用する場所であり、高齢者が利用することも少なくないはず。エレベーターがないと、階段を上り下りすることが出来ない人は、奥のホームに行くことを諦めるしかありません。だから、私は、地域の人や高齢者が使うことのある公共施設には、エレベーターを設置したほうが良いのではないかと考えます。

私は少し前に東京に行きました。その時私はあることに気がつきました。歩道と自転車道が、分離されていたのです。私はそれを見て、安全でいいなと思いました。私の住んでいる町では、中学校に自転車を通う人が多くいるので、自転車に乗っている人をよく目にします。私は、自分が自転車に乗っているとき、広い道でも歩行者とすれ違うことができず、自分が歩いているときは、自転車を見つけたら道の端に寄って立ち止まります。なぜなら、歩行者にぶつかってしまうことや自転車にぶつかられることが恐いからです。私は、自転車に乗って走っている人や歩行者が安心してその道を通り、自転車と歩行者が接触する事故をなくすために、歩道と自転車道を

分離することを行ったほうが良いのではないかと考えます。

エレベーターを設置すること、歩道と自転車道を分離することは、すぐに実現させるのは難しいと思います。それでは、どうすれば良いのでしょうか。私は、人と人がお互いのためを思って行動することが大切だと考えます。例えば、駅で奥のホームに行きたい高齢者を見つけたら、荷物を持ってあげたり、背中を押しながら一緒に上ってあげたりすることが出来ます。自転車で歩道を通るとき、歩行者がいたら、ベルを鳴らしたり「通ります」と声をかけたりすることが出来ます。もし、エレベーターが設置されていたら、歩道と自転車道が分離されていたなら、このように「声をかけ合う」「手助けをし合う」ということはできません。地域の交流が出来て、人を助けられたいなら、それはとても素敵なことだと思います。

私の町には、あつたほうが生活しやすいのになものたくさんあります。しかし、それがないからこそ出来るふれあいがあり、支えあいがあります。この町が、人のあたたかさによって動き、人が人のために動くことでみんなが生活できる、そんな町であり続けるために、私も「声をかけ合い」「手助けをし合う」ことを意識して生活したいと思っています。



「見えない障害」



光 中学校2年
はせがわ ゆり
長谷川 由凜

私には、障害があります。それは、ファロー四徴症という心臓の病気で、マラソンや縄跳びなどで走ったり跳んだりすると、心臓に負担がかかり人一倍苦しくなるのです。

だから、小学校の時のマラソン大会では、走るのが遅くなり、どれだけ一生懸命走ってもいつも最後の方のゴールでした。

このように、私には目に見えない障害があるので、この目に見えない障害は、色々なケースがあります。例えば、耳が聞こえない聴覚障害、言葉を発する事や会話をする事が難しい言語障害、読み書きが不自由だったり、文字が左右上下反転して見える障害や、様々な発達障害、自閉症、精神障害、喘息などもその一例です。このような障害は一見しただけでは、ほとんどの場合全く分かりません。そのため、周りから理解されずに困っている方がたくさんいるのです。

そして、この目に見えない障害は、とても誤解を受けやすいのです。時には、心無い言葉の暴力を受ける事もあります。

「この人は何か変だ」

「動くのが遅い」

「何を言っているのか分からない」などです。

私自身も見えた目では心臓に持病があるか分からないので、

「走るが遅い。やる気があるのか?。」と、言われた事があります。この言葉は私を馬鹿にしたわけではなく、ただの疑問として言われた言葉なのですが、時としてこういう言葉は私だけではなく家族や友人など周りの人も傷つけます。たいていの人は障害を理解してくれ困っていると助けてくれますが、なかには差別をする人もいます。ただ、「自分とは違う」という理由だけです。

私は、こういう考え方は間違っていると思いますし、人として残念だと思います。

日本には、障害者基本法というものがあります。「全ての障害者は、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有し、社会を構成する一員として、社会・経済・文化・その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられ、障害を理由として差別されないことを基本理念とする」という内容です。最初、この基本法を読んだ時、難しくてあまり意味が理解できなかったのですが、母に聞いてみました。そこで色々考えた結果、私はどんな障害があろうとも、誰も何も我慢せずにやりたい事をやり、誰もその邪魔や批判をせず、時として見守り、手助けをし、協力して生きていくのが最良だと考えました。

私が、なぜ「見えない障害」について書くかと思うたかという点、パラリンピックを見たからです。みなさんも知っているように、選手の方々はとてもすごかったです。見ていて胸が熱くなって心の底から

応援しました。

どの選手を見ても障害をハンデと感じさせないほど、すばらしい試合をしていました。

私は「障害」というものを考えるうちに、「目に見える障害」だけではないと思ったのです。「目に見えない障害」は当然ですが、この「目に見えない障害」もとても大切に考えないといけないと思うのです。

私の障害は、心臓の病気といっても日常生活は普通に送れます。激しく動かない限り苦しくもなりません。そのため、体育や部活など制限がなく参加できます。

ですが、他の「目に見えない障害」を持っている方の中には、日常生活も思うようにいかない方もいます。そして、先ほど言ったように一見して分からない分、大変な思いをしていると思います。こういう方々を出来るだけサポートしあえる世界を私は望みます。もちろん私も出来る限り目や気を配って生活していきます。

余談ですが、私は変なところで負けず嫌いです。小学校時代のマラソン大会では、障害を理由に棄権するのは絶対に嫌いで、どれだけみんなから遅れてゴールしても毎年最後まであきらめず走りきりました。ビリになって、ちよつと恥ずかしくて、心臓は破れそうだったけれど、とても達成感がありました。この時、私を応援してくれた友人・先生方・父母の温かい気持ちは、今でも私の心に残っています。この温かい気持ちを全ての人に届けられるように、これから生きていきます。



横芝中学校1年
あつぎ
厚木のどか

中学校の部 最優秀賞

ポスターの部



横芝中学校1年
まつむら
松村 花穂

中学校の部 優秀賞



横芝中学校1年
あつた
熱田 直緒

中学校の部 優秀賞



横芝小学校3年
いとう
伊藤 玲空

小学校の部 優秀賞



横芝小学校6年
かたおか
片岡 祐樹

小学校の部 最優秀賞



小学校の部 優秀賞

白浜小学校5年
い は し お と か
伊橋 乙華



小学校の部 優秀賞

白浜小学校1年
い と う は る ひ
伊藤 悠妃



カスミ横芝光店様による
移動スーパーが10月18日
からはじまりました!! *

毎週、月曜日～金曜日に食品などを載せた車が町内各地区の集会所などを回っています。



場所の選定等について各地区社会福祉協議会・分会・生き生きクラブの皆様方にご協力いただきました。



小学校の部 優秀賞

横芝小学校5年
た か は し り ひ と
高橋 理人



令和3年度 社会福祉協議会 賛助・特別会員 (R3.11.30現在)

賛助会員 (法人・事業所)

(敬称略・順不同)

大新工業(有)	銚子商工信用組合	(有)光住販	(株)トーカン工業
(株)青柳建設	(株)村田屋本店	萩原畳店	(株)中村薬局
(弁)九十九里	(有)杉森興業	(株)林建材	(有)毎日薬局
(有)バーネットビレッジ	(有)平山工務店	鈴木木材工業(株)	(有)秋山架設
おばこや	京葉デンキ	平和堂薬局光店	(株)太智建設
(株)畔蒜工務店	(有)須藤工業所	青雲閣	日産プリンス千葉販売(株)
畔蒜総業(株)	(株)大手	(有)斉藤自動車整備工場	(株)横芝緑化
(有)ハヤカワ商行	(有)グリーンファーム九十九里	(有)さいとう電気	(株)海成
(株)ウザワ商店	平山損保事務所	(株)三光自動車工業	京葉製鎖(株)
(有)ユート・アメニティ	総武建設(株)	ハリカ横芝光	(株)椎名畜産
西村歯科医院	(株)越川スレート	(有)とん亭九十九	(有)ホクショー千葉
ステップ(有)	環境産業(株)	(有)竹内運送	馬狩建設(株)
ゼンミ食品(株)	(有)フードショップいちほら	山崎電気工業	(有)早川陶器店
(株)放電精密加工研究所	青柳酒造(株)	(有)サンアート	(有)石坂産業
(有)早川組	(株)なんじゃもんじゃ		

特別会員 (福祉施設)

(敬称略・順不同)

光楽園(養護)	吉祥苑(特養)	横芝光(特養)	三愛(特養)
第二松丘園(特養)	心結会まんまる	光町中央保育園	光町保育園
日吉保育園	白浜保育園	フタバ保育園	



あなたも地域福祉の担い手に



社会福祉協議会では引き続き会員の募集をしています。ご協力をお願いいたします。



**ご協力
ありがとうございます**

9月13日(月)～10月29日(金)まで行ったフードドライブ(食品回収)に多くの方のご協力をいただききました。いただいた食品は、フードバンク千葉に届けるとともに町民の皆様のために活用させていただきます。